

活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第52期生名簿（2011年4月～2011年9月）[6名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Wicaksono Indra Bagus	バグス	インドネシア	電気工学	広島大学
Yulius	ユリウス	インドネシア	生物工学	広島大学
Eam Phyrom	ピロム	カンボジア	教育学	広島大学
Waqar Azeem Jadoon	ジャドゥーン	パキスタン	環境関係学	広島大学
Tay Sharen Wei Wei	シャレン	ブルネイ	教育学	広島大学
Almousa Reem M. H.	リーム	サウジアラビア	教育学	広島大学

第53期生名簿（2011年10月～2012年3月）[11名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
劉英美	ヨンミ	韓国	日本語教育	広島大学
張有玓	ユジョン	韓国	倫理教育	広島大学
Hooi Yoong Kin	フーイ	マレーシア	化学	広島大学
Phwe Phwe Kyi	ピィピィチー	ミャンマー	科学	広島大学
Nanzad Namjilmaa	ナンジャ	モンゴル	数学	広島大学
Wati Sotia Lesivoukilakeba	ワティ	フィジー	教育	広島大学
Juliana Bentes Marques	ジュリアナ	ブラジル	教育	広島大学
刘菊霞	リュ	中国	教育	広島大学
Naiyaporn Kornpat	コンパット	タイ	エネルギー工学	広島大学
Selvaraj Thomasrabhu	トマス	インド	機械材料工学	広島大学
Nguyen Tat Thanh	タン	ベトナム	エネルギー工学	広島大学

講師一覧

第52期（2011年4月～2011年9月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

第53期（2011年10月～2012年3月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

第52期(2011年4月～2011年9月)予定表

	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
4/4 ～ 4/8	4/5（火）13:00 オリエンテーション (K308) 4/6（水）11:30 開講式（学生プラザ 4F 多目的室1）		
4/11 ～ 4/15			
4/18 ～ 4/22		4/22（金） 広島市	4/22（金） 17:00 ホストファミ リー対面式
4/25 ～ 4/29			4/29（金）昭和の日（祝 日）
5/2 ～ 5/6			5/3（火）憲法記念日 （祝日） 5/4（水）みどりの日 （祝日） 5/5（木）こどもの日 （祝日）
5/9 ～ 5/13			
5/16 ～ 5/20			
5/23 ～ 5/27		5/27（金） 宮島	
5/30 ～ 6/3	6/2（木）中間テスト		
6/6 ～ 6/10			
6/13 ～ 6/17			
6/20 ～ 6/24			
6/27 ～ 7/1			
7/4 ～ 7/8			
7/11 ～ 7/15			
7/18 ～ 7/22		7/22（金） マツダ	7/18（月）海の日（祝 日）
7/25 ～ 7/29	7/28（木）期末テスト 7/29（金）特別講義		
8/1 ～ 8/31	夏休み		
9/1 ～ 9/2	9/1（木）・9/2（金）特別講義		
9/5 ～ 9/7	9/5（月）・9/6（火）特別講義 9/7（水）13:30 研修成果発表会・修 了式		

第53期(2011年10月～2012年3月)予定表

	行事／試験等	見学(総合演習)	備考
10/3 ～ 10/7	10/5 (水) 13:00 オリエンテーション(K308) 10/6 (木) 10:30 開講式 (教育学部第3/4会議室)		
10/10 ～ 10/14			10/10 (月) 体育の日 (祝日)
10/17～ 10/21		10/21 (金) 広島市	10/21 (金) 17:00 ホストファミリー 対面式
10/24 ～ 10/28			
10/31 ～ 11/4			11/3 (木) 文化の日 (祝日)
11/7 ～11/11			
11/14 ～ 11/18			
11/21 ～ 11/25		11/25 (金) 宮島	11/23 (水) 勤労感謝の日 (祝日)
11/28 ～ 12/2			
12/5 ～ 12/9	12/8 (木) 中間テスト		
12/12 ～ 12/16			
12/19 ～ 12/23			12/23(金)天皇誕生日(祝日)
12/24 ～ 1/7	冬休み		1/2 (月) 元日振替 (祝日)
1/9 ～1/13			1/9 (月) 成人の日 (祝日)
1/16 ～ 1/20		1/20 (金) マツダ	
1/23 ～ 1/27			
1/30 ～ 2/3			
2/6 ～ 2/10			2/11 (土) 建国記念の日 (祝日)
2/13 ～ 2/17			
2/20 ～ 2/24	2/23 (木) 期末テスト 2/24 (金) 特別講義		
2/27 ～ 3/1	2/27 (月)～2/29 (水) 特別講義 3/1 (木) 13:30 修了式・研修成果発表会		

日本語・日本事情

(2011年4月～2012年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本の教育と文化A	1	2	
日本の教育と文化B	1		2
日本語聴解特別演習A	1	2	
日本語聴解特別演習B	1		2
日本語分析特別演習A	1	2	
日本語分析特別演習B	1		2
日本語表現特別演習A	1	2	
日本語表現特別演習B	1		2
日本語古文特別演習B	1	2	
日本語古文特別演習B	1		2
日本語語彙特別演習A	1	2	
日本語語彙特別演習B	1		2
映像日本語特別演習A	1	2	
映像日本語特別演習B	1		2
論文作成法A	1	2	
論文作成法B	1		2
日本の社会・文化A	1	2	
日本の社会・文化B	1		2
日本語・日本文化特別研究ⅠA	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅠB	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅠC	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅡA	4	4	
日本語・日本文化特別研究ⅡB	4	4	
日本語・日本文化特別研究ⅡC	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教官	石原淳也・深見兼孝・多和田眞一郎・山中康子・渡辺久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村泰男・中川正弘・下村真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に 応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週 - 第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、 完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テス ト(1) 第6週 - 第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、 受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テ スト(2) 第11週 - 第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使 役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A ・ I B
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： クラスメート、手紙、誕生日、日曜日、結婚式、お花見、アルバイト、家族、宇宙、留学生の生活、小旅行、犬好き、風呂屋、東京での生活、曜日、正月、花火、体育の日、かまくら、すもう、駅の売店、日本語のあいまいさ、ロボット、温泉と火山
テキスト	「日本語中級読解入門」 (アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん、たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村泰男・坂田光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め</p>
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>本授業では、次のようなトピックスを扱う：</p> <p>回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術、若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車</p>
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村泰男・坂田光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない</p>
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus 40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	日本の教育と文化A
担当教官	中矢礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本の子育て文化（歴史・文化編）、日本の子育て政策と現状（社会編）、日本の学校教育の発展（江戸時代）、日本の学校教育の展開1（明治・大正期）、日本の学校教育の展開2（昭和期）、日本の学校教育の現在（平成）、日本の学校文化（規律文化）、日本の学校文化（和と輪と集団主義）、日本の学校文化（権威主義と民主主義）、日本の学校文化（いじめ問題）、日本の社会教育1（歴史編）、日本の社会教育2（公民館）、学生グループ討議・発表
テキスト	適宜配布する。
成績評価の方法	出席（欠席3回まで）、授業態度50%、毎回のコメント用紙20%、レポート30%

授業科目	日本の教育と文化B
担当教官	中矢礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本人のイニシエーション1（妊娠・出産・産後）、日本人のイニシエーション2（子ども期）、日本人のイニシエーション3（青年期）、日本人のイニシエーション4（成人期）、日本の学校におけるキャリア教育1（自己発見）、日本の学校におけるキャリア教育2（職業意識）、日本の学校におけるキャリア教育3（実習・進路選択）、日本の学校における伝統文化の継承日本の地域社会の仕組みと特徴①、日本の学校における伝統文化の継承、日本の学校における歴史教育、日本の学校における国際理解教育、日本の学校における言語教育、学生グループ討議・発表、学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価の方法	出席（欠席は3回まで）、授業態度30%、コメント用紙20%、レポート30%

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り <p>さらに、重要語句の使い方について練習する。</p>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主 教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主 教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	<p>日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。</p> <p>テーマ別には、以下に掲げる通りである。</p> <p>1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密</p>
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	<p>日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。</p> <p>1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩</p>
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喻表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 畳語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週 - 第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週 - 第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	論文作成法 A
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	論文作成法 B
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題－不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル 1

授業科目	総合日本語初級 I A・I B
担当教官	山中康子・渡部浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	総合日本語初級 II A
担当教官	渡部浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週 - 第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週 - 第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週 - 第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

留学生関係科目 (2011年4月～2012年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2
Advanced Japanese A (Expression)	2	2	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2
Advanced Japanese A (Classical)	2	2	
Advanced Japanese B (Classical)	2		2
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2
Academic Writing A	2	2	
Academic Writing B	2		2
Japanese Society and Culture A	2	2	
Japanese Society and Culture B	2		2

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C
担当教官	堀田泰司
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週- 第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週- 第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週- 第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん、たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・IE
担当教官	石原淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価の方法	出席と試験および宿題による評価。

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない</p>
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、～のように、 ～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、～とはなしに～していると、 かえって～、せめて～たら、～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～ (と)している、～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、～とともに、ま るで～ようだ、～さ／～み／～め</p>
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り <p>さらに、重要語句の使い方について練習する。</p>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	<p>日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。</p> <p>テーマ別には、以下に掲げる通りである。</p> <p>1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密</p>
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	<p>日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。</p> <p>1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩</p>
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喻表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 畳語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	Academic Writing B
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・ 日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

第 26 期 (2010 - 2011)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 26 期は国際センター受入のイタリア、インドからの学生それぞれ一名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのトルコおよびニュージーランドからの各学生 1 名の計 4 名でプログラムを開始したが、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と津波による福島第一原子力発電所事故による放射能汚染に対する懸念からニュージーランド人学生が奨学金を辞退し帰国したため、2011 年度前期からは 3 名でプログラムを継続することとなった。

<特別講義等>

2010 年度（第 26 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10 月		
6 日	11:00 開講式	石原
8 日	10:30 プレイスメント・テスト	
	13:30 オリエンテーション	中川
15 日	広島見学 1（広島城・平和公園）	石原
22 日	特別講義「音声学」	石原
29 日	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
11 月		
5 日	広島見学 2（現代美術館ほか/HS 協会対面）	中川
12 日	特別講義「日本人の言語行動」	大浜：教育学研究科
19 日	特別講義「俳句入門」	浮田
26 日	宮島見学	石原
12 月		
3 日	特別講義「日本語と文体」	中川
10 日	西条酒造会社見学	田村
17 日	マツダ見学	石原
1 月		
14 日	特別講義「日本の考古学」	古瀬：文学研究科
21 日	特別講義「世界の平和教育」(中矢)	浮田
28 日	福山見学	田村
3 月		
25-26 日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川

4月

- 8日 プレイメントテスト1
15日 オリエンテーション2 中川
22日 特別講義「比較言語文化論の視点」(浮田)
29日 祝日(ゴールデンウィーク)

5月

- 6日 研修レポート構想発表 石原
13日 特別講義「日本の漢詩」 佐藤：文学研究科
20日 サタケ見学 中川
27日 特別講義「日本の経済」 小松：国際協力研究科

6月

- 3日 特別講義「沖縄のことば」 多和田
10日 特別講義「日本社会とジェンダー」 恒松
17日 特別講義「広島の方言」 町：教育学研究科
24日 呉市・下蒲刈島見学 中川

7月

- 1日 特別講義「平和国家日本」 中園：国際協力研究科
2日 ホームステイ協会交流会 中川
8日 研修レポート中間発表 石原
22-23日 松江・出雲見学旅行 石原

9月

- 6日 レポート提出締め切り 石原
8日 レポート発表会、修了式

第12期 平成23年度(2011年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名、22年度5名と人数は年度によって増減はあったものの、途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、本年度も5名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より21年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、昨年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。本事業に対する国際センター(旧留学生センター)の関与はさらに大きくなってきたと言える。

また、前年度副部会長であった工学研究科の西田教授、国際センター石原准教授とともに、今年度からは理学研究科の小島准教授も副部会長に就任されることとなった。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート

7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について：

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、昨年度からレベル 4, 5 を履修させることとなった。また、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17 年度より、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設している。また、昨年度は生物のクラスの代わりに開設した日韓文化論のクラスを今年度も引き続き開講することとした。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。昨年度までは、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、本年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになった。また、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとした。

なお、本23年度における予備教育科目および週当たり時間数は以下の通り。

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/2-10/8	4渡日、6開講式(10:30) 5, 6 諸手続	7(金) 2コマ目 プレイスメントテスト、 3コマ目 オリエンテーション	
W1	10/9-10/15	10 体育の日 11 授業開始 14 情報セキュリティ講習		月なし
W2	10/16-10/22		21(金)終日 広島見学	
W3	10/23-10/29			
W4	10/30-11/5	3 文化の日	4(金)夕方 HS 協会対面 5 創立記念日	水金なし
W5	11/6-11/12			
W6	11/13-11/19		18(金) 宮島見学	
W7	11/20-11/26	23 勤労感謝の日		火なし
W8	11/27-12/3			
W9	12/4-12/10			
W10	12/11-12/19		16(金)午後 マツダ見学	
W11	12/18-12/24	23 天皇誕生日 冬休み(12/24-1/7)		
W12	1/1-1/7			
W13	1/8-1/14	9 成人の日		月なし
W14	1/15-1/21			
W15	1/22-1/28	専門科目終了		
W16	1/29-2/4			
W17	2/5-2/11	10 修了式 11 建国記念日 春休み(2/12-)		

	月	火	水	木	金
1		数学(水田)		※物理(山下)	
2	生物(渡辺)	日本の社会・文化 B 中矢	化学(平田)	総合日本語中級 II E 坂田	日本語会話 坂田
3	※物理(米倉)		映像日本語 特別演習 B 石原		日韓比較文化 論 坂田
4	日本語聴解特別 演習 B 深見	総合日本語中級 II D 田村		日本語分析特別演習 B 中川	日本語作文 坂田

平成 23 年度留学生支援にかかわる活動

中矢礼美

本年度の主な活動は、次の5点である。1) 留学生修学相談、2) 留学生オリエンテーション、3) 留学生支援担当者ネットワークの拡充、4) 留学生支援調査、5) Face to Face Project (国際教育活動)。いずれにおいても留学生指導担当という役職のないままでの「移行期間」における自主的活動に制限されているとはいえ、今後の留学生支援体制整備にむけて、一定の成果を上げることができた。

1. 留学生修学相談

国際センターへ組織改編した直後の平成 22 年度は、留学生相談業務については継続事案を除いて、極力国際交流グループや心理相談窓口を紹介していた。しかし、紹介した後に、実際に相談に行く留学生はほとんどいなかった。また、教員としてしか対応できない「修学相談」は受け付けざるをえないということで対応を始めた。留学生の修学相談についての広報は、全学向けの留学生支援ポスターおよび広島大学 HP において行うこととした。その結果、少しずつ相談者が再び訪れ始めた。留学生センターの最終年度に比べると非常に少ない数であるが、年間 14 人の留学生がのべ 45 回相談に訪れた。相談の内容は、大学院入学試験の準備にかかる指導教員との問題（研究生期間中に指導が極めて不十分である等）、大学院課程期間において指導教員との相互不理解やコミュニケーション問題、受け入れ期間についての指導教員との理解の不一致、研究室のミスマッチ（習得したいスキルが身につかないことが判明）、就職活動のための推薦状の問題などである。メールで事前に面談予約をしてきた留学生は 4 人であった。ポスターを見てメールをしてきたり、来室した学生は 3 人であった。それ以外の留学生は、先輩、友人、出身国の指導教員からの勧めできているか、筆者の授業を受けたことがある学生であった。問題は、長引くケースが 2 件あり、1 件は指導教員に直接会って、指導教員の変更を行うことで問題解決に至った。もう 1 件は、留学生だけでなくその指導教員や関係者との電話相談を受けつつ、継続中である。

2. 留学生オリエンテーション

1) 新渡日留学生オリエンテーション

来日直後に全学の新渡日留学生を対象として前期 1 回、後期は 2 回行った。新しい形式として留学生支援担当である教職員がそれぞれの担当について説明を行い、顔を見せることで留学生が相談に来やすくするように配慮した。具体的には、どのような問題が起こり

うるのか、どのような問題で相談に来るのか、どのように解決していくのかなどを説明することで、留学生が安心して修学に臨めること、問題発生・拡大の事前予防策としての機能を重視した。また、東広島キャンパスのみならず、霞キャンパスでもテレビ会議方式を用いたり、日本語・英語会場と中国語会場に分けて行うなどの工夫を行ったが、テレビ会議では接続できなかつたり、声が聞こえにくいなどの問題があった。全体として参加者が少ないという課題も残されている。

2) NOIE オリエンテーション

国際交流ボランティア改め NOIE（国際交流ネットワーク）に登録している留学生で、東広島市内の小中学校において市教育委員会と連携して行っている国際理解事業に参加したい学生に対して行う国際交流オリエンテーションである。正規の教育課程における教育活動であるため、事前に市教育委員会の担当指導主事の方と打ち合わせを行った上で、国際理解教育を専門とする筆者が、日本における国際理解教育および活動の際の留意点について説明を行う。説明に参加した留学生は市教育委員会に伝え、優先的に参加する機会を与えることとしている。オリエンテーション参加者も数名しか集まっていないという課題が残っている。

3) 学生チューターオリエンテーション

国際センター所属留学生の日本人学生チューターのオリエンテーションも実施し、留学生との良好な関係構築について、よくある事例をもとに理解をしてもらった。チューターハンドブックの改訂が次年度の課題である。

3. 留学生支援担当者ネットワークの拡充

1) 留学生支援担当者連絡会

留学生センター時に存在していた留学生支援体制協議会を改め、留学生支援担当者連絡会を結成し、定期的に担当教職員が情報共有と留学生支援体制の拡充する活動を行った。以下、連絡会での重要事項について、以下議事録より抜粋して報告する。

(1) 平成 23 年度第 1 回留学生支援担当者連絡会 2011 年 4 月 18 日 (月) 8:30~9:50

○留学生支援体制協議会の新年度体制について (中矢)

- ・学内での本会議の位置付を明確化するために、「留学生支援担当者連絡会」によって、全学的に同一レベルのサービスが出来るように、部局の担当教員にも参加について理解を求め、横のつながりを強化する。
- ・今後に向けての課題は、学内での認知度を高め、有用観をもたせること。そのため、これまでの留学生支援体制協議会の取り組み（議事録、連携事例）相談事例を作成し（担当：中矢）、機会をみて広報する。また、各部局の留学生専門教員担当教員の名簿を作成（担当：甲田主査）し、共有し、時期をみて留学生支援担当者会議への参加を

今後よびかけていく。

○留学生支援緊急連絡網について（中矢）

- ・土、日、祝、夜間に事故などが起こった際、どこに連絡をすればよいのか、留学生には正確に伝わっていない。4/8（金）の新入留学生オリエンテーションの参加者は、約60名（英語・中国語）である。新入留学生は約200名いるはずなので、早急に「留学生支援緊急連絡カード（仮）」を配るなどして、危機管理をしなければならない。
- ・「学生生活の手引き」は日本語のみしかないので、英語・中国語訳が必要。来年度には多言語化するように提言する。

2) 平成23年度第2回留学生支援担当者連絡会：2011年6月13日（月）10:00～11:00

○留学生支援体制について（中矢）

- ・各部局の留学生担当教員・事務担当者の名簿を相談対応者に配布する。
- ・次回の連絡会では、下記の情報を持ち寄ってもらい、留学生の学位取得や研究生の受け入れ態勢などについても議題にあげる。
 - a) 留学生とその教員、チューターなどの情報
 - b) 各部局での留学生への緊急連絡体制（ex. 災害や事故時）の情報

○留学生支援の範囲について（中矢）

- ・留学生の相談は基本的には留学生に出向いてもらうが、家族についての相談で市の相談所などへ紹介する際には、1回目のみ、顔つなぎのために同行する。2回目以降は市の国際交流ボランティアに依頼することとする。

3) 平成23年度第3回留学生支援担当者連絡会：2011年9月13日（火） 10:00 - 12:00

○緊急連絡カードについて

- ・掲載する電話番号は、国際センター、学生支援窓口（勤務時間内）、指導教員、保険会社（加入している場合）とし、国際センター以外の番号は学生に書き込ませる

○留学生データベースについて

- ・国際センターでデータベース作成担当を付けてもらえるように、理事に要請する国際交流グループにてデータベースの運用方法について検討する。予算措置が必要であれば要求する。
- ・2011年10月分より登録を開始すれば、半年後には研究科間の「わたり」などの確認が出来るので、これから使いやすいシステムを考える。
 - ・留学生支援担当者は全員が見られるようにする。

4) 平成23年度第4回留学生支援担当者連絡会：2012年2月13日（月） 10:00 - 11:30

●第2回留学生支援担当教職員連絡会について（その後の状況）

○留学生アンケートについて（甲田主査）

- ・2011年度の調査は、「もみじ」のアンケート機能を使って12月に実施したが、66

名しか回答が無かったため、1月に再度実施したところ276名（回収率24.7%）が回答した。

○H23年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会報告（中矢）

- ・独立法人化後、全国の大学の留学生指導体制は2つのタイプに分かれた。1つは、指導部門の教員を強化した（5~6名）タイプで、もう1つは指導部門をなくし大学全体のネットワークを強化したタイプである（広島大学と熊本大学）。後者におけるネットワークというのは、責任者不在の状態であることを認識する必要がある。
- ・全国の大学は緊急連絡体制の構築に力を入れており、Twitterなどを使った情報伝達システムを開発している大学もある。

○留学生相談・対応状況報告（中矢、北中先生、小島先生）

- ・修学相談（中矢）では、研究テーマの変更、就職の推薦状（会社の面接官の面接を電話で中矢先生が推薦者として対応）についての相談を報告

5) 平成23年度第45回留学生支援担当者連絡会：2012年3月30日（金）10:00 - 11:30

○新入留学生オリエンテーションについて

○留学生相談・対応状況報告（中矢、北中先生、小島先生）

（2）留学生支援担当教職員連絡会

広島大学では留学生の受け入れ増加に伴い、トラブルといった問題も発生してきているため、各部局の留学生担当教員・担当者と平和・国際室、国際センター、保健管理センター、ハラスメント相談室との情報の共有化を図ることを目的に前期1回、後期1回開催した。

1) 平成23年度第1回 留学生支援担当教職員連絡会：2011年7月14日

○留学生支援体制について

会議を踏まえ、各部局の留学生情報（過去の在籍状況、授業料の納付状況、入居情報、相談履歴など）を共有するシステムを10月を目途に構築する。

○留学生の緊急連絡体制について

中矢が国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会における報告を行った。

- ・東日本大震災発生時、東北大学工学研究科国際交流室では、災害連絡カードを全教職員と1・2年生に配布していた。また、全学安否確認連絡送信フォーム（震度6以上になると自動的に全教職員・学生にメールが発信され、返信すると自動的に大学と家族に安否情報が流れる）を整備していたため、すぐに安否確認が出来た。
- ・茨城大学留学生センターでは、留学生は其々の国別・学年別のネットワークで情報共有をしていたので、キーパーソンを押さえておくとよい。

⇒広島大学でも緊急連絡カードを作る必要があると思われる。

2) 平成 23 年度第 2 回留学生支援担当教職員連絡会：2011 年 12 月 5 日

第 1 回の会議を踏まえた支援体制整備状況と留学生状況について、以下の事項の共有、全学の教職員と各部局における状況の情報交換ができ、有意義であった。

○留学生用メーリングリストについて（甲田主査より）

第 1 回連絡会からの宿題であった災害時に備えた全留学生向けのメーリングリスト（発行者：国際センターのみ）を作成した。

○緊急連絡カードについて

○留学生住宅総合補償の加入手続き・継続手続きについて

○2010 年度留学生支援調査報告について（中矢）

留学生支援調査を国際センター、ハラスメントセンター、キャリアセンター合同で、2010 年 12 月に行った（全留学生 1、169 名に配布し、453 名（38.8%）が回答した）。広島大学での修学・生活に対する満足度の調査では、指導教員の助言、所属事務支援ともに（5 点満点中それぞれ、4.39、3.98）と高かったが、年々点数が下がってきているのが気になるところである。この 10 年の大学の取り組みを留学生がどのように評価しているのかを確認するため、後日 10 年分の経年変化を解析した報告を作成し関係部局に配布する予定である。

○2010 年後期留学生支援調査日本語クラスのニーズについて（中矢）

アンケートの際、語学教育のニーズについても調査を行った。中国、モンゴル東ヨーロッパなどでは、第 2 言語として英語の学習をしたことのない学生もいるため、基礎英語クラスの必要性を尋ねたところ、回答者の 36%（164 名）が必要と回答していた（不必要は 280 名）。また国際センターで開講している日本語クラスの開講数については、68%（310 名）の学生が十分だと回答していた（不十分は 127 名）。自由記述で必要なクラスについて尋ねたところ、会話をする機会が 68 名、社会文化 49 名、論文の書き方 17 名、ビジネス 8 名のような回答が上がった。これを受けて、今年度より「社会文化」、「論文の書き方」について新しい授業を開講している。

○2011 年度留学生支援調査自由記述意見・相談報告について（中矢）

・調査の際、自由記述欄に 52 名の学生が意見・相談を記載していた。これについては、国際センターの中矢（修学相談担当）、甲田（奨学金・宿舎等担当）、小倉研究員（交流・生活担当）、保健管理センターの小島研究員（臨床心理士）で、回答・対応を行った。

4. 留学生支援調査

2011 年度の調査は、これまでのアンケートに修正を加えて「もみじ」のアンケート機能を使って 12 月に実施した。しかし最終的に 276 名（回収率 24.7%）の回答にとどまり、統

計的に無効であるため、ここでは掲載しないこととする。来年度は、従来通りの配布方法に戻す予定である。

5. Face to Face Project

2011年度は、6回のFace to Face Projectを開催した。開催にあたっては、総合科学部の村上由里さんと本田秀一さんがコーディネイトおよびファシリテーターとして活躍してくれた。以下は、テーマの報告のみとし、本プロジェクトの詳細の報告と考察については別稿にて行うこととする。

第1回 テーマ：日本が直面する震災と原発問題について

日時：2011年4月25日(月) 16時20分-18時00分

場所：学士会館レセプションホール2F 使用言語：日本語と英語

活動：被災地宮城での支援活動報告と自由討論

第2回 テーマ：観光開発と人々の暮らし

日時：2011年5月30日(月) 16時20分-18時00分

場所：学士会館レセプションホール2F 使用言語：日本語と英語

活動：学生発表「文化遺産を取り巻く問題について」とグループ討論

第3回 テーマ：「異国」のまなざしによる「自国」の見方の形成、そして相互理解へ

日時：2011年6月27日(月) 16時20分-18時00分 (受付16時開始)

場所：学士会館2F レセプションホール 使用言語：日本語と英語

活動：①「イタリア文学にみる日本、日本文学にみるイタリア」の発表

(発表者：キアラ・コマストリ 日本語・日本文化研修留学生 イタリア)

②留学生、日本人学生参加者全員による自由討論(1時間程度)

第4回 テーマ：若者の責任と夢

日時：2011年7月21日(木) 16時20分-18時00分

場所：学士会館レセプションホール 使用言語：日本語と英語

活動：①学生発表「中国大学生中国西部援助プロジェクト—責任と夢」

(発表者：HUSA 中国人留学生 王穎さん)

②留学生、日本人学生参加者全員による自由討論(1時間程度)

第5回 テーマ：「学校教育と平和」

日時：2011年11月28日(月) 16:20~18:00 (受付16時開始)

場所：学士会館2F 会議室2 使用言語：日本語と英語

活動：①学生発表「中学校における平和教材に関する研究」

(発表者：教育学研究科生 ロシア人留学生 アナスタシアさん)

②留学生、日本人学生参加者全員による自由討論(一時間程度)

第6回 テーマ：『原子力発電を考える』

日時：2012年1月16日（月） 16時20分～18時（受付は16時開始）

場所：学生会館2F 会議室1 使用言語：日本語と英語

活動：①学生発表「原子力発電：日本、インドネシア、世界」

（発表者：インドネシア人留学生、エルフィアントさん）

②留学生、日本人学生参加者全員によるグループ討論（1時間程度）

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム

堀田泰司・恒松直美

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange : 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム)は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学67校と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し充実したインターンシップ科目を開講し、日本企業での実践的な経験を持つ機会も提供している。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うためUMAPが開発したUCTS (UMAP単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAPが新たに開発したUSCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSAプログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際セン

ターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：40 名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
 - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (4) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦と UMAP 学習計画書を参考にし、書類選考を行う。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2011-2012 年度に開設された授業科目一覧表である。

2011-2012 度 (2011 年 10 月～2012 年 7 月) 授業科目一覧

2011 度秋学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Current and Future States of the Researches in the Fisheries Science	2 単位	生物生産学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
HUSA Internship I : Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
HUSA Internship II : Practicum *	2 単位	教育学部
Introduction to Radiation in the Environment	2 単位	工学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Special Subject III (Japanese Economy)	2 単位	経済学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles B	2 単位	総合科学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部

*通年開講

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Phonetics and Phonology (音声学・音韻論入門)	2 単位	総合科学部
Introduction to the Theory of Inter-Cultural Communication (異文化コミュニケーション論入門)	2 単位	総合科学部
Oral and Dental Science: Dietary Life and General Health (口腔の科学: 食生活と全身の健康)	2 単位	教養教育
Seminar in English Debate (英語ディベート演習)	2 単位	総合科学部
What is Peace? (平和とは何か)	2 単位	教養教育
Laboratory in Physical Science B (物理科学実験 B)	2 単位	理学部

2012 度春学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Animal Production Science	2 単位	生物生産学部
Special Subject (Development Macroeconomics)	2 単位	経済学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部

HUSA Internship II :Practicum *	2 単位	教育学部
---------------------------------	------	------

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
言語の比較と対照研究	2 単位	教育学部
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部
現代国際法演習	2 単位	総合科学部
水循環論	2 単位	総合科学部
心理言語学	2 単位	総合科学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
英文法	2 単位	文学部
専門教養・国際協力論（「社会医学・国際協力論・医学統計学」よりタイトル変更）	2 単位	医学部
人体構造学 3. 個体と器官の発生	2 単位	医学部
ジブンから始まる世界平和	2 単位	教養教育
INU 特別協力講義 B	2 単位	教養教育

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B（リスニング）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B（映画）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B（古典）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B（語彙）	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2011-2012 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2011-2012 年度は、33 名の留学生を受け入れた(2010 年度 36 名)。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2011-2012 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 11 名、女子学生 22 名であった。

III. 2011-2012 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

申請と選考：2011 年度募集要項は、2011 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2011 年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島

大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページでHUSAプログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003年度HUSAプログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習：2011年度秋学期も例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学を行い文化体験学習の機会を提供した。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語教育が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組み立てられている。

2003年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣している。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。研修の充実化を図り、短期交換留学生のキャリア教育及び日本社会とグローバル社会との連携の発展を目指している。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは企業体験者講話に基づいたPBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生がより自主的に学びを高め合い大学教育とグローバル社会をつなげられる場を作った。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実させ、ホリスティックに短期交換留学生の教育を充実化させていくことを目指した。2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題して新しく授業を開講する予定である。2012

年度春学期は、新しい授業の開講に向けて、グローバル社会における産官学連携の新しい方策を模索していくためのパイロット・スタディを行った。

文化交流支援活動：

- 9月に来日した際に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。
- 国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003 年度より、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。担当教員も、2011 年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行ってきた。

HUSA 広報活動：HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

HUSA プログラム評価：プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV. 2011-2012 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2011 年 1 月初旬に応募者の選考試験

を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2012 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考に関する概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、トルコ、ポーランド、セルビア、ロシア、オーストリア、ニュージーランド、イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス等の 67 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、スペイン等へも派遣している。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金：** 日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- ・ **現地コーディネーターのアシスタント：** 協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流：** 留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を

得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

5. 面接（口述）試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の 1 つの評価指標としている。

6. 選考委員会の実施

例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し選考及び推薦を行っている。

V. 2011-2012 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2011 年度の短期交換留学生派遣に関しては、31 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、フィンランド、中国、韓国、マレーシア、ドイツ、フランス、スウェーデン、の 19 大学と 1 コンソーシアム・プログラムへ派遣した。1 カ国に複数の協定校がある国ごとの傾向を見た場合、アメリカは 4 大学、イギリス 3 校、ドイツ 2 校、中国 3 校、韓国 4 大学と近年欧米だけでなく中国や韓国への留学も拡大している。しかし、全協定大学との交流バランスを見ると、毎年、受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく、欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：23 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、

協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度（4月と6月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を6月の第2回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：23年度も、派遣留学を促進するため、すでに2006年より開講してきたINU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されているINU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

UMAP 活動への貢献：本学の教育交流部門は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。23年度は、UMAP 国際事務局並びに理事会が開発したUSCO（UMAP 学生交流オンラインシステム）プロジェクトのシステム開発のアドバイザーとして、ひき続きタイから台湾が引き継いだUMAP 国際事務局を支援し、オンラインシステムの実施に協力した。また、本学もUSCO システムを利用したUMAP 学生交流活動にも参加し、すでに何人かの学生を毎年受け入れている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2011年

- 4月 * UMAP 国際理事会へ出席（マニラで開催）（堀田）
- 5月 * 「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」東広島商工会議所文化交流委員会講話（恒松）
- 6月 * 台湾の高等教育評鑑中心基金會（HEEACT）の国際会議に出席（堀田）
* ファーマン大学（アメリカ）より表敬訪問（堀田、恒松）

- 8月 * UMAP 国内委員会会議出席
- 9月 * アジア協力対話 (ACD) の国際会議に出席 (マニラで開催) (堀田)
- 10月 * UMAP 国際理事会へ出席 (台湾で開催)、台湾国立中央大学 (協定大学) を訪問 (堀田)
- 12月 * UMAP の USCO プログラムの説明会に講師として出席 (堀田)

2012年

- 2月 * JICA (国際協力機構) の委託研究のため協定大学であるインドネシア大学、マラヤ大学を訪問 (堀田)
 - * 派遣留学を促進するため「スタート」プログラムの引率者として、米国ジェームス・マディソン大学に2週間滞在し、講義、講演等を実施 (堀田)
- 3月 * UMAP国内委員会会議出席 (堀田)
 - * UMAP国際理事会出席 (マニラで開催) (堀田)

研究・その他の活動

1. 研究論文・著書

- 恒松直美 「短期交換留学生向けインターンシップ授業 – 企業体験者講話の導入と留学生の意識 –」, 『総合学術学会誌』, 第 11 号, 2012 年, pp.11-18.
- 恒松直美 「大学教育と社会の相互支援を目指した短期交換留学生インターンシップ – 『グローバル化支援インターンシップ』パイロット・スタディ –」, 『広島大学国際センター紀要』, 第 2 号, 2012 年, pp.1-15.
- 恒松直美 「省察的实践と『グローバル化支援インターンシップ』 – フェミニズム理論とエンパワーメントのパラダイム –」, 『広島大学留学生教育』, 第 16 号, 2012, pp.1-15
- 中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* – 日本語翻訳と文体の表現価 –」, 『広島大学フランス文学研究』, 第 30 号, pp. 72-92 (広島大学図書館リポジトリ登録版には補遺 30 頁付)
- 中矢礼美 「インドネシアにおける平和教育に関する研究」, 広島大学大学院教育学研究科教育学教室『教育科学』, 第 28 号, 2011 年, 6-24 頁
- 中矢礼美 「インドネシア・アンボンにおける平和な文化をつくるための学校教育」, 日本総合学術学会『日本総合学術誌』, 第 10 号, 2011 年, 55-62 頁
- 中矢礼美 「インドネシアにおける生きる力の育成」, 広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』, 5 月号, No.1126, 2011 年, 70-73 頁
- 中矢礼美 「平和教育カリキュラム編成に関する国際比較研究 – アメリカ・カナダ・インドネシアの事例 –」, 『広島大学国際センター紀要』第 2 号, 2012 年, 17-32 頁
- 中矢礼美 「平和教育カリキュラムの国際比較研究 – 平和的な平和構築力の育成に注目して –」, 中国四国教育学会教育学研究紀要(CD-ROM版), 第57巻, 2011年, 87-92 頁

深見兼孝 「日本語の『～ニスル』と朝鮮語の‘-lo hata’について」, 『広島大学国際センター紀要』, 第2号, 2012年3月, pp.51-60

堀田泰司 「アジアにおける質保証を伴った学生交流への期待と課題：ヨーロッパとの比較分析」, 『メディア教育研究』, 第8巻第1号, 2011年, pp. S33-45. (招待論文)

2. 学会発表

恒松直美 「インターンシップと短期交換留学生の意識変容 - 企業体験者講話の導入 -」, 日本高等教育学会第14回大会, 名城大学, 2011年5月28日

恒松直美 「短期交換留学生の日本留学による意識変容」, 留学生教育学会第16回研究大会, 名古屋大学, 2011年8月20日

恒松直美 “Consciousness Transformation of Students through University Education in Japan: From Local and Global Perspective”, 日本教育学会第70回大会, 千葉大学, 2011年8月26日

恒松直美 「社会人の意識変容 - 留学生インターンシップにおける国際教育と社会の相互支援 -」, 留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会第6回, 京都大学(東京オフィス), 2011年10月28日

中矢礼美 「インドネシア・アンボンにおける学校機能の変遷」(ラウンドテーブル『マレー世界の比較教育 - 地域研究を町から考える』), 日本比較教育学会(早稲田大学), 2011年6月24日

中矢礼美 「諸外国における平和教育カリキュラムに関する一考察」, 日本教育学会(千葉大学), 2011年8月25日

中矢礼美 「平和教育カリキュラムの国際比較研究」, 第47回中国四国教育学会(広島大学), 2011年11月19日

深見兼孝 「現代朝鮮語における『時間名詞』+loについて」, 西日本言語学会第41回講

演・研究発表会, 西南学院大学, 2011年9月10日

堀田泰司 「Comparative Study of the Bologna Process in Belgium, Netherlands, Germany and Italy: Values and Dilemmas of Transformations」, 第44回(全米)比較国際教育学会(CIES), モントリオール, 2011年5月1日 (選考審査あり)

堀田泰司 「東アジア高等教育のための共通フレームワーク構築の可能性とその課題: アセアン+3 の13カ国比較研究報告書からの一考察」, 日本高等教育学会第14回大会, 名城大学, 2011年5月28日 (選考審査なし)

堀田泰司 「ボローニャ・プロセスの世界の高等教育に対する波及効果と課題: 欧州、北米、アジアの事例研究を中心に」, 第47回日本比較教育学会, 早稲田大学, 2011年6月25日 (選考審査なし)

3. 学術研究補助金

恒松直美 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金, 基盤研究(C)「グローバル社会におけるパラダイム・シフト: 日本の高等教育とキャリアにおける意識変容」
研究課題番号: 21530881

中矢礼美 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金, 若手研究 (B)「平和構築コンピテンシーに関する国際比較研究」研究課題番号: 21730670

深見兼孝 研究分担者 (平成23-25年度) 科学研究費補助金, 基盤研究(C)「説話の超域文化性に関する基礎的研究」研究課題番号: 23520434 (研究代表者: 佐藤利行)

堀田泰司 研究代表者 (平成 21-23 年度) 科学研究費補助金, 基盤研究(B) (海外学術調査)「欧州高等教育改革が及ぼす欧州域内外の高等教育プログラムへの影響に関する研究」研究課題番号: 21402042

堀田泰司 連携研究者 (平成 22-24 年度) 科学研究費補助金, 基盤研究(B)「急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究」研究課題番号: 22330226 (研究代表者: 米澤彰純)

堀田泰司 連携研究者（平成 23 年度）科学研究費補助金，基盤研究(B)「グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究」研究課題番号：23330240（研究代表者：太田浩）

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学高等教育開発センター 学内併任研究員

堀田泰司 UMAP 日本国内委員会専門委員
UMAP 国際事務局、テクニカル・アドバイザー

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学術学会監事

中川正弘 日本フランス文学フランス語学会中国・四国支部機関誌編集委員長

中川正弘 広島大学フランス文学研究会参与

中矢礼美 留学生教育学会編『留学生教育』第 16 号にかかる論文査読

中矢礼美 中国四国教育学会編『教育研究ジャーナル』第 7 号にかかる論文査読

深見兼孝 西日本言語学会運営委員

深見兼孝 日本総合学術学会理事

深見兼孝 韓国学研究会理事

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美 「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」，東広島市商工会議所文化交流委員会講話，東広島市商工会議所，2011 年 5 月 12 日

恒松直美 「交換留学生インターンシップ授業における国際教育と社会の相互支援体制の構築の課題」，G30 国際教育指導研究シンポジウム，京都大学，2011 年 12 月 7 日

堀田泰司 「アジア高等教育における「透過性」のある教育システムの重要性:東アジア 13 カ国の単位制度，成績評価基準等の調査結果に基づく一般的傾向と今後の方

策について」東アジア高等教育質保証国際シンポジウム, 文部科学省主催, 東京都, 2011年9月13日(招待講演)

堀田泰司 「The Importance of “Permeable” Framework in Asian Higher Education: Introduction of ACC¹ (Asian common credit) and three new challenges」, International Asia-Europe Conference 『Enhancing Balanced Mobility』, タイ高等教育局, ASEM 委員会主催, バンコク(タイ), 2012年3月5-6日(招待講演)